

長野の林業

No.
402

2025.11.10

特集

トピックス

地域の話題

県森連だより

万博での県産材活用

- ・ 鳥獣対策
- ・ 信州伐木チャンピオンシップ2025
- ・ 諏訪地域/木曽地域/佐久地域



信州伐木チャンピオンシップ2025

本県では2回目となるチェーンソーの技術競技会「信州伐木チャンピオンシップ2025」が8月30日(土)長野県林業大学校(木曽町)において開催されました。

およそ250の方が来場し、洗練された伐木技術、迫力のあるチェーンソーワークを体感しました。



長野の林業
フルカラー版

県産材あれこれ話



万博での活用から地域のイベントまで

10月8日は「木の日」です。これは、1977年（昭和52年）に日本木材青壮年団体連合会が提唱したものです。

また、「都市（まち）の木造化推進法」では、10月が「木材利用促進月間」に、10月8日が「木材利用促進の日」に設定されており、「木づかい運動」の推進に係るイベントの開催など、全国で様々な取組が展開されました。そこで、県産材に関する情報をあれこれ紹介します。

あれこれ その1

「大阪・関西万博での県産材の利用状況視察」

「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに4月13日から10月13日まで大阪 夢洲で開催された大阪・関西万博も盛況のうちに閉幕しました。

県産材利用推進室では、信州木材認証製品センターの先進地視察

に同行し、県産材や木材の利用状況を視察してきました。

「スペインパビリオン」

スペインパビリオンの一部には信州カラマツを使用して製作された構造用集成材が使用されていました。

パビリオンのデザイン上、塗装されていることから、県産材等の使用状況はわかりにくいですが、ステージ横の柱やパビリオン出口などで木材の使用状況を確認することができました。

「大屋根リング」

万博といえば、大屋根リングです。

一周2キロメートル、高さ約20メートルの大屋根リングは、現時点で日本最大の木造建築物になりますが、万博終了後に一部を残し取り壊されることが決まっています。

しかし、万博のシンボルでもあったこの大屋根リングは、私達の記憶に永遠に残ることでしょう。



スペインパビリオンでの木材使用状況



スペインパビリオン入り口



大屋根リング



あれこれ その2

「あつたか信州！」

炎のぬくもり体験会」を開催

10月11日(土)、12日(日)の2日間、長野市ホワイトリングで、薪ストーブ・ペレットストーブ普及啓発イベントを開催しました。



体験会開催状況

体験会では、県内の薪ストーブ・ペレットストーブ販売店など8者に出展いただき、来場された方に薪割り体験や炎のぬくもりを感じてもらうことができました。

今後も様々なイベントを通じて木質バイオマスの普及啓発を進めてまいります。



多くの方に薪割り体験をしてもらいました

あれこれ その3

「つなぐ木のいのち展」での木工品を展示

10月18日(土)、19日(日)の2日間、松本市の中町・蔵シック館で、「つなぐ木のいのち展」実行委員会主催による展示販売会が開催され、卓越した匠により製作された県産材等を使用した家具や木工品などの展示販売が行われました。

匠が制作した作品を直接、手に触れていただくことで、県産材の持つあたたかさや素材の魅力を感じていただける良い機会となりました。



つなぐ木のいのち展 開催状況



国内外の方に県産材の良さを感じていただきました

【県産材利用推進室】

お耳を拝借

「森の国・木の街」づくり宣言をしませんか。

「森の国・木の街」づくり宣言」とは、自治体や企業等の皆様が、

① 建築物の木造化など木材利用の推進、② 木材利用の効果の見える化に取り組むことを宣言するもので、10月1日より農林水産省が募集を開始しました。

宣言に参画いただける皆様は、右の二次元コードまたは、下記URL内の登録フォームより宣言をお願いします。

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/mokusan/rinyahp/20251001-1.html>



ツキノワグマ出没の現状と対策

私たちの暮らす信州は、雄大な自然と豊かな生態系に恵まれた場所です。しかし近年、ツキノワグマの生活圏への出没が常態化し、人身被害の増加が深刻な社会問題となっています。特に2023年以降はその傾向が顕著で、今年度も深刻な状況が続いています。これは山間部だけの問題ではなく、長野県に暮らす人々の安全や信州の未来に関わる喫緊の課題です。今回は、近年のクマをめぐる情勢と長野県の取り組み、そして私たち一人ひとりに求められる行動について紹介します。

2023年には、全国で統計開始以来最多となる人身被害が記録されましたが、長野県でも例外ではありません。2025年度は9月末までに15名が被害に遭い、3年連続で2桁に達するなど、過去に例を見ないペースとなっています。6月には、大町市の森林で淡竹採りの男性がクマに襲われ死亡する事故が発生するなど、山間部を中心に被害が相次ぎました。

しかし、警戒すべきは山間部だけではなく、10月には長野市の善光寺周辺の市街地でクマが目撃され、多くの住民や観光客に衝撃を与えました。市街地などこれまでクマの出没が稀だった場所での目撃情報が増え、報告されるなど、クマの生息域と人の生活圏の間にあった「見えない境界線」が曖昧になっている状況が浮き彫りになっています。

市街地等へのクマの出没には様々な要因があります。

①餌の不作：2023年度には堅果類(どんぐり)が全国的に記録的な不作となり、2025年度も北信地域でブナなど堅果類の不作が確認されています。冬眠前のクマは餌を求めて行動範囲を広げるため、山の中の餌の状況次第で人里への出没リスクが高まります。

②分散期：初夏から夏にかけては、1歳半から2歳半になった若いクマが母親から独り立ちする時期です。この時期の若いクマは経験不足で

警戒心が薄く、新たな生息地を探して行動範囲を広げる傾向があります。特に好奇心旺盛な個体は、人間を恐れずにはぐらかすと市街地へと迷い込んで来ることがあります。

③個体数の増加と生息域の拡大：県では定期的にクマの生息状況を調査しており、2020年の調査(7,270頭)では2011年の調査(3,940頭)に比べ、中央値で約2倍の推定生息数となっています。また、過疎化や耕作放棄地の増加により、人の手が入りにくくなった里山がクマの住処となり、結果として人間とクマの生活圏がより一層近づくことになりました。

このような深刻な事態を受け、県ではクマによる被害防止対策を強化しています。本年9月には鳥獣保護管理法の改正により「緊急銃猟制度」が導入され、市街地など人の日常生活圏にクマが出没した際、市町村長の判断で安全対策を講じたうえで、捕獲者による銃猟が可能となりました。県では、現場で指揮を執る市町村が迅速に対応できる体制づくりを支援するため、対応マニュアルの整備や関係機関との緊急出沒訓練の実施などを進めています。

さらに、市街地や人の日常生活圏に出没した危険個体の速やかな捕獲を進めるほか、電気柵の設置管理やクマのエサとなるゴミや放棄果樹の管理啓発など、クマを人里に寄せ付けないための環境整備にも注力し、クマとの棲み分けを目指した取り組みを進めています。併せて、本年9月からはクマの出没情報をリアルタイムで閲覧できるスマートフォンアプリ「けものおと2」の運用を開始し、

情報提供の迅速化を図っています。

クマの出没リスクを減らすためには、私たち一人ひとりの行動が重要です。生ごみや廃果を放置しない、家の周りの藪を刈払うなど、身近な場所の「クマを寄せ付けない」環境づくりが最も重要です。また、「出会わない」ための知識と装備を身に着けることも大切です。山に



写真1. 森の中に現れたクマ



野生鳥獣による林業被害(令和6年度速報値)

野生鳥獣による農林業被害の発生は、農林家の生産意欲を減退させるなど、農山村地域における深刻な問題となっています。このたび、令和6年度の農林業被害額(速報値)がまとまりましたので、報告いたします。

※ここでの林業被害には、立木・苗木の被害のほか、林産物(原木シイ



写真2. クマが襲ってきた場合の防御姿勢

入る際は、クマ鈴やラジオなど音の出るものを身につけてクマに人間の存在を知らせ、互いの距離を保つことを意識してください。特に早朝や夕方、ヤブの多い場所などはクマが潜んでいる可能性もあるため注意が必要です。

「遭遇時」には冷静な対応が必要です。万が一クマと遭遇してしまった際は、慌てずに、落ち着いてゆっくり後ずさりしましょう。走って逃げたり、大声を出したりするのは逆効果です。襲ってきた場合には、写真2のように顔や首、腹部を守る防御姿勢をとってください。

クマの問題は、捕獲などの対策だけでは根本的な解決には至りません。私たち一人ひとりが日常の中でクマを意識し、行動を変えることが重要です。環境を整え、知識を身につけることで、危険を避けることができます。こうした意識と行動の積み重ねが、安全で安心な地域づくりの第一歩です。

【森林づくり推進課】

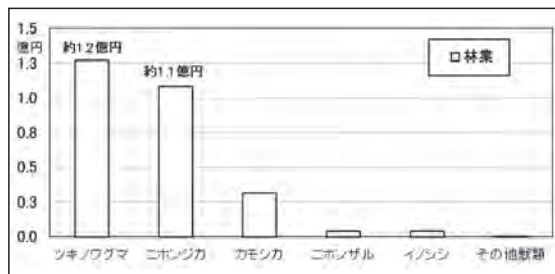


表2. 獣種別林業被害額(R6速報値)

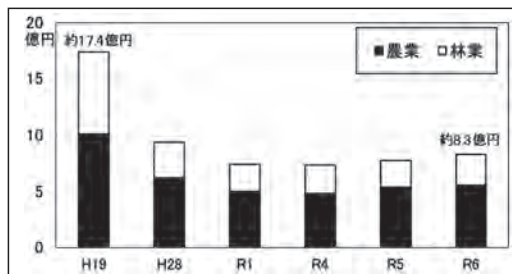


表1. 農林業被害額の推移

タケ・マツタケ・タケノコ)の被害を含みます。

令和6年度の野生鳥獣による農林業被害額(速報値)は約8億3千万円で、前年度(約7億7千万円)から7%の増加となりました(表1)。平成19年と比較すると、各種対策の推進により大幅に減少していますが、近年は微増傾向が続いています。

このうち林業被害は約2億7千万円で、全体の約3割を占めています。前年度(約2億4千万円)から14%の増加となりました。

林業被害を獣種別にみると(表2)、最も被害額が大きいのはツキノワグマ(約1億2千万円)で、形成層の採食を目的とした立木の剥皮被害が発生しています。次に被害が多いのはニホンジカ(約1億1千万円)で、剥皮被害のほか、植栽地や苗畑での苗木の被害が見られます。3番目に被害が多いのはカモシカ(約4千万円)です。ニホンジカと同様に苗木の被害をしますが、両者の被害を判別するのは難しく、ニホンジカ被害との混同も一定数あると考えられています。その他、ニホンザルやイノシシによる原木シイタケ・タケノコの食害や、イノシシの掘り起しによるマツタケのシロの破壊なども報告されています。

今後、再造林を進めていくうえで、野生鳥獣による林業被害の発生は大きな障害となります。被害防止対策・環境整備・捕獲の3本柱による対策を着実に推進し、林業被害のさらなる減少を図ってまいります。

【森林づくり推進課】

信州伐木チャンピオンシップ2025が開催されました！

盛況に開催！

令和7年8月30日に長野県林業大学校において、チェーンソーの安全かつ正確な操作技術を競う競技会「信州伐木チャンピオンシップ2025」が開催され、林業関係者や地域住民など約250人が来場しました。この競技会は、競技を通じて、林業就業者の安全意識と技術の向上を図るとともに、林業の魅力の発信や事業者間の交流を目的としており、長野県においては、昨年に引き続き2回目の開催となりました。県内の林業事業体や林業大学校等から21名の選手が参加し、日頃の業務や練習で磨いてきたチェーンソー技術を披露しました。

「エキスパートクラス」では森下広誠（もりしたこうせい）選手（平澤林産南）が、「ビギナークラス」では清野嗣（せいのゆずり）選手（長野県林業大学校）がそれぞれ優勝しました。競技会に参加した選手からは「競技を通じてチェーンソーの安全な操作技術への理解が深まった」「学んだ技術や知識

を社内で共有したい」「競技を通じて他の事業体と交流できた」といった感想が挙げられ、自らの技術を見つめ直し研鑽するとともに、事業者間の交流が生まれる機会となりました。

競技会の意義

競技会の開催に当たり、選手及びスタッフは、事前に講習会を受講し、競技のルールの確認や実技練習を行いました。競技においては、誤った動作（危険な動作）は大幅な減点となり、また、ツル幅や受け口等の1mm、1度といった

僅かな差が得点に影響し、順位に繋がります。安全かつ正確な動作を理論的に学び、高得点を目指して競うという楽しさが加わることで、練習に励み、安全への理解の深化と技術の向上が図られます。

多くの関係者と作る競技会

本競技会の運営においては、林業事業体、団体、県職員など、70人近くのスタッフが参加したほか、県内外の林業関係の企業、団体20者から協賛として運営費の寄付や入賞者への賞品、ノベルティ

グッズ等を提供いただくなど、林業に関係する様々な主体が参画し、全員で作り上げた競技会になりました。

競技結果の詳細、競技のパンフレット等については、長野県のホームページで公開しています。

「信州伐木チャンピオンシップ 実行委員会」

（林務部信州の木活用課）

※本競技会は木や森に関する人材育成とイノベーション創出を目指す「木曾谷・伊那谷フォレストバレー」構想に関する取組です。



合わせ輪切り競技
傾けた丸太を、下側と上側から上下の段差が少なくなるよう伐り出す競技



伐倒競技（簡易方式）の立木に見立てた丸太を正確に伐倒することを想定して、受け口、追い口を伐り出す競技



事前に講習会を受講しスキルアップを図る選手



2025 ミス日本みどりの大使佐塚こころさんが会場リポーターとして、参加し会場を盛り上げました。



木曾谷・伊那谷フォレストバレーについて



競技会について



選手の皆様、本当にお疲れ様でした！



諏訪地域

電動クロスバイクを導入しました!!

諏訪地域振興局では、災害発生時の現地調査に係る係員の業務負担軽減及び効率化を図るため、電動クロスバイクを導入し、その有用性を検証しました。

試験は標高差約107m、往復2・6kmの同一ルートで実施し、徒歩と電動クロスバイクにより、移動から現地調査(LiDARによる点群データの取得)、出発地点まで戻ってくるまでの所要時間と疲労度を比較しました。

その結果、所要時間は徒歩48分に対し、電動クロスバイクでは33分と約3割短縮され、移動時間の効率化が確認されました。平均心拍数は徒歩で約140bpm、電動クロスバイクで約150bpmとやや高くなりましたが、発汗量や所要時間が減少したこと、体感強度(RPE)は「ややきつい」から「楽」へと軽減しました。これは、上り坂でモーターアシストが働くことで筋肉への負担が減り、体力を温存しながら移動できたためと考えられます。

これらの結果から、電動クロスバイクは災害現場における移動の省力化・時間短縮・安全性向上に有効であり、係員の負担軽減と現場対応力の向上に寄与する有用な手段であることが明らかになりました。人手不足が騒がれる今、限られた人員で工夫して業務に取り組む姿勢を忘れず、頑張っていきたいと思っています。



落石で車が通れない箇所も進入可能です。歩道程度の幅があれば進んでいけます。



崩壊により道型がない場所でも(頑張れば)移動できます。

【諏訪地域振興局林務課】

木曽地域

「ABMORI in きそまち」キックオフイベントが開催されました

「エビモリ」は、平成25年に歌舞伎俳優の市川團十郎(旧名「海老蔵」)さんが、「環境を守るために行動したい」との呼び掛けにより森林づくりの取り組みがスタートし、以降山ノ内町の志賀高原で行われ、延べ約2.3haのスキー場跡地に約1万人が関わり植栽を行い、森林に復興してきました。

山ノ内町では11年10回を契機に、植えるから育てる活動にシフトしていく方向性から、スキー場跡地の緑化を模索していた木曽町が手を挙げ、ABMORIを引き継ぐことが決定したため、去る9月21日に木曽町三岳の旧御岳ロープウェイスキー場において、「ABMORI in きそまち」キックオフイベントが開催されました。

イベントには、團十郎さんやご家族(長女ぼたんさん、長男新之助さん)、阿部知事、原木曾町長、地元小学生ら約70名が参加し、カラマツ苗100本を、交流を深めながら植林し、2年後に植林する育苗を進めるためカラマツ種子も播きました。

実行委員会では、10年ほどかけ旧スキー場を森林に戻す計画としており、團十郎さんからも「木や森林を少しでも増やし、環境や風景を守っていくため、皆さんと末永く活動していきたい」と挨拶があり、「ABMORI in きそまち」が本格始動しました。



團十郎さん親子は地元小学生とカラマツを植林



カラマツ種子の播種

【木曽地域振興局林務課】

佐久地域

地域資源を活かす！

町有林カラマツで町営住宅を建築

～立科町で構造見学会を開催～

令和7年10月15日、立科町では町有林カラマツを無垢構造材として活用した町営住宅の構造見学会を開催しました。

この取組みは、令和5年6月に町長が「森林認証※を得ている町有林の木で町営住宅を建てられないか」と問いかけたことから始まりました。町は木材の専門家「信州ウッドコーディネーター」の支援を受け、木材の調達と建築工事を分けて進める「材工分離発注」の方式を採用しました。

町のコンセプトとして、太く育ったカラマツを芯去り無垢の構造材や内装材に活用したいという意向を伝えたところ、木造に精通した建築士の選定方法や製材・乾燥のスケジュールなど、専門的なアドバイスを受けることができました。

この助言をもとに、①建築士による木拾いの実施、②木拾い表を製材工場に提供して丸太の必要量を算出、③それを基に森林組合による伐採と建築材に軸足を置いた造材を行い、建築工事の着工に合わせた森林認証材の供給体制を整えました。

これにより、川下から川中を経由し川上に対し、必要な木材の情報が伝達（垂直連携）され、構造材の7割と内装材の大半を町有林材で賄うことができ、町有林の有効活用という目的を達成しました。

この取組みは、「信州の豊かな森林と環境を守る県産材利用促進条例」を踏まえた、市町村が先進的に県産材の利用を進める好例であり、今後、県内各地に広がることを期待しています。

※適切な森林管理や持続可能な森林経営が行われている森林



構造見学の模様



浅間連峰を意識した切妻屋根

【佐久地域振興局林務課】

入って良かった！ 森林保険

近年、過去に例のない自然災害が毎年のように発生しています。
冬から春に多く発生する
林野火災への備えも。

主伐期を迎えた森林、再造林地に安心を。

手厚い補償※で
皆様の森林をお守りします！



もりる



ねりる



たもちい



そよりん

※1ha 加入時の例

樹種	林齢	加入年数	保険金額（補償額）	保険料（掛け金）
カラマツ	1年生	1年	800,000円	3,432円
ヒノキ	51年生	5年	4,500,000円	65,205円

ご加入はお近くの森林組合へ

お問い合わせ先 ☎026-226-2504 長野県森林組合連合会



10月5日に長野市善光寺表参道セントラルスクウェアにて「2025長野県協同組合フェスティバル」が開催され、約9000人が来場し、大いに賑わいました。

当日は、生協や農協、ワーカーズコープなど県内の協同組合組織などが41ブース出展し、各協同組合での取組みを紹介する展示や農産物や加工品の販売、乳しぼりや健康チェックなどの体験に親子連れをはじめ楽しんでいました。当会では林業資材や乾椎茸の販売のほか、丸太切り体験を行い、林業や木製品に親しみを持ってもらったためPRしました。

また、本年が2回目の国際協同組合年ということで、『メッセー지를貼って「夢の樹」を作ろう』という特別企画を行いました。来場者に「長野県のがこ好き」「こんな長野県になって欲しい」というテーマでメッセー지를募り、実が成った大きな樹にしていくもので、山や自然を取り上げていただいた方が多く、森林組合系統ができることを改めて考えたいと思いました。

ながの森林・林業フェア 長野の森で遊ぼう



10月18日長野市茶臼山自然植物園にて「ながの森林・林業フェア」長野の森で遊ぼう」が開催されました。長野市や林業関係団体で構成された実行委員会が主催し、子供から大人まで森林に親しみ、木の温もりに触れることができるイベントで、当日は、木工やクラフト体験、ツリークライミングや林業機械の展示など盛り沢山のブースで賑わいました。

長野森林組合では、しいたけ原木の駒打ち体験やチェーンソーアートの実演を披露し、長野県森林組合連合会では、伊那市の「やまとわ」の経木「Shiki (シキ)」を使った、オーナメントとランタンづくりを行いました。

紙のように薄い経木の質感や香り、松ぼっくりができる木と同じアカマツで出来ていることなどに驚きながら、思い思いの制作を楽しむ子どもたちの姿がありました。

今回のイベントが、暮らしの中にもっと森や木材を感じてもらえるきっかけになることを願っています。



ともに林業を考えよう～長野県林業職員協会の活動～

中部5県職連ブロック会議 in 新潟県

9月3～4日に新潟県弥彦村で第50回中部5県森林組合職員連盟ブロック会議が開催され、岐阜、新潟、富山、福井の各県会員と全国森林組合連合会から29名が参加し、長野県林業職員協会からは山下会長と事務局の2名が参加しました。

初日は各県域での活動や諸課題について情報交換が行われ、2日目は長岡市和島での主伐・再造林現場と和島林木育種園での少花粉スギ苗木の生産について視察しました。

長野県とはまた異なる地域特性を持った環境での林業のあり方は、視野を広げ、学ぶものが多くありました。



▲中越よつば森林組合が取り組む主伐・再造林の現場を視察

全職連全国研究集会 in 栃木県

9月11～12日に栃木県宇都宮市のライトキューブ宇都宮で「令和7年全国森林組合職員連盟全国研究集会」が開催され、全国から160名余りの会員が参加しました。

「2025国際協同組合年とJForestグループの取組」を開催テーマとし、(一社)日本協同組合連携機構の阿高あや主任研究員による基調講演のほか、全国各地での森林組合の取組について発表がありました。

2日目は、昨年開校した栃木県立林業大学校を視察しました。県産材を使用した木構造の展示場となっており、柱のない大空間を実現した講義室や安価に建てられる倉庫などで、公共物件や商業施設の木造化の提案がされているのは興味深いものがありました。来年は鹿児島県で開催予定です。



▲みどりの大使佐塚ころさんの講演



▲栃木県立林業大学校の視察

林業基本問題研究会 in 飛騨高山 「欧州型作業道と広葉樹活用」



▲欧州型作業道を実際に歩き、細部まで視察する一同

9月18～19日に岐阜県飛騨高山地域で「林業基本問題研究会」が開催され、9名の会員が参加しました。

初日は、たかやま林業・建設業協同組合が平成23年から取り組む「欧州型作業道」を現地視察しました。ドイツ人フォレストターの監修の元、建設業者の施工による強固な路盤と速やかな雨水の排水を狙った屋根型構造になっているのが特徴で、優れたメンテナンス性や排水の工夫に興味津々で、開設コストなどの質問が相次ぎました。

2日目は国産広葉樹を使用した家具製造を行っている飛騨産業(株)の工場見学と「広葉樹のまちづくり」に取り組む飛騨市役所を訪問しました。

飛騨産業(株)では、貴重な広葉樹材を無駄なく使う曲木の技術を大切にしており、飛騨市では一般に流通に乗らない小径木や短尺材を集める中間土場を設置するなど特徴的な取組に、森林を見る目が変わる視察でした。



▲飛騨産業(株)にて、家具に加工されるのを待つ広葉樹材たち



▲様々な樹種が使われていて楽しい、飛騨市役所応接室



森林組合しか知らない世界

森林組合って何？どんな仕事をしているの？組合員って？…etc.

そんな森林組合にまつわる、森林組合しか知らない世界を紹介するコーナーです♪

今回のテーマ：
～森林組合連合会職員のとある一日～

県下 18 森林組合の出資で組織運営されている長野県森林組合連合会。
県森連の代表的な業務である、会員森林組合に対する指導監査や研修会の開催を行う指導利用部と、共同出荷による有利販売を通じて県産材の流通を行う業務部が運営する木材センターについて、連合会職員のとある一日のそれぞれの業務を見ていきます。



指導利用課職員

森林組合のいろはが身につく業務です。

8:30

12

13

17

メールチェック	質問照会対応	森林組合からの事務連絡文書作成・発送	実績資料のチェック	緑の雇用OJT研修	昼休憩	会計実務研修会の資料作成	協同組合連絡会のWeb打合せ
---------	--------	--------------------	-----------	-----------	-----	--------------	----------------



指導利用部は、指導事業として会員森林組合への指導、監査のほか研修会の開催を行い、利用事業として森林保険の引受・填補、緑の雇用事業の監督検査業務を行っています。

森林組合システム監査を行うには森林組合監査士の資格が必要で、毎年12月に行われる試験に挑戦し、取得します。

普段は、森林組合から挙がる事業や会計、組織運営など多岐にわたる質問に対し、関係法令に照らして回答します。全森連にさらに照会をかけて調べることもあります。年に数回行う森林組合向けの研修会では、自らが講師として登壇することもあり、事前の勉強や資料作成が重要です。森林に対する唯一のセーフティネットである森林保険事業では、窓口である各森林組合等から来る契約の申込みを引受け、森林保険センターでの手続きを行うほか、実際に林野火災や水害、干害、凍害などの災害が発生した場合は、現地での損害調査に向かいます。緑の雇用の監督検査では、研修生日誌や研修記録簿のチェックを行い、適正な事業利用が来ているか検査します。



木材センター職員

11月の市売は記念市です！

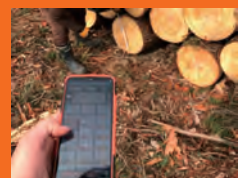
8:30

12

13

17

朝礼	出荷材の積込作業	仕分け・積積作業	選木機での入荷受入対応	昼休憩	山土場での手検知	市売準備
----	----------	----------	-------------	-----	----------	------



伊那、南信、中信、北信の県内4ヶ所にある木材センターでは、地域の森林から森林組合や素材生産業者によって生産された原木を受け入れ、需要に合わせて仕分け選木し、毎月の原木市で販売するほか、山土場に集積したカラマツやスギ、ヒノキなどの素材丸太を協定を結んだ県内外の大型製材工場や合板工場へトレーラーで出荷しています。日々の業務は、木材センター土場でのフォークリフトやログローダーを使った積込業務や、自動選木機を使った仕分けと積積みが中心となります。山土場や素材生産現場へ向かい、造材指導や検知、集荷の営業も行います。

生産された地域の木材を価値付けてより有利に販売し、森林所有者や素材生産者に還元するとともに、国産材の安定供給を担保する重要な役目を担っています。

何より木の知識や需給状況を知っていることが求められる、木材のプロです。

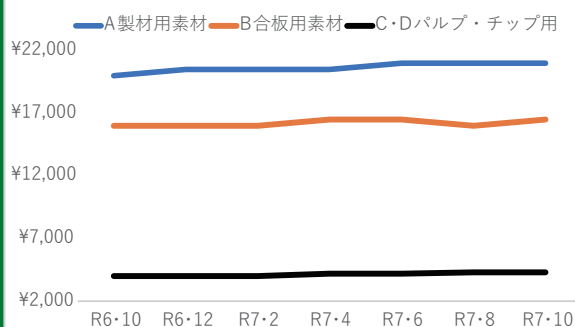


JForest

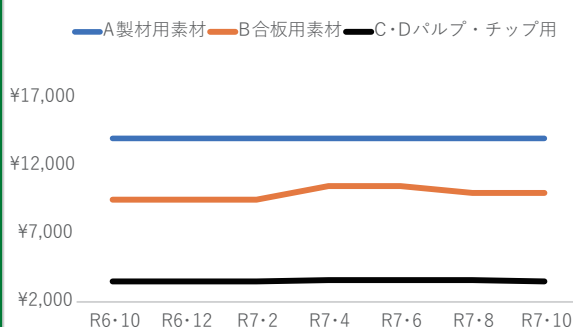
長野県の木材市況



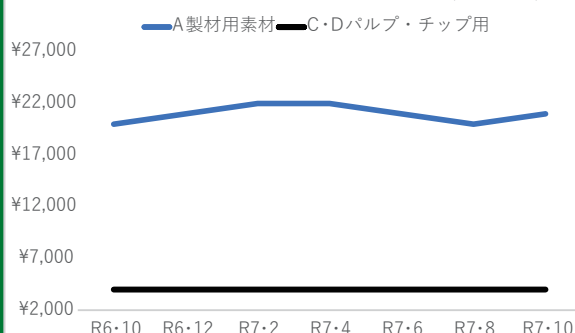
カラマツ用途別素材立米単価 (円/㎡)



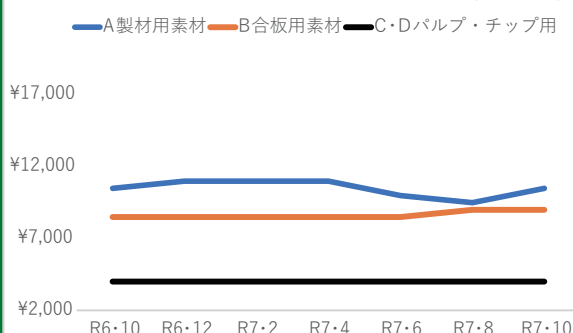
スギ用途別素材立米単価 (円/㎡)



ヒノキ用途別素材立米単価 (円/㎡)



アカマツ用途別素材立米単価 (円/㎡)



※北信、中信、伊那木材センターの市況表より作成

9月の各木材センターの市売において、多数のご出品をいただきありがとうございました。

特に伊那木材センターでは、国有林から高齢級ヒノキの多数出品があり、高値続出の賑やかな市売となりました。

製材用丸太の依然続く原木供給不足から、ヒノキ・スギともに需要が保たれ、カラマツについても需要が持続していますので、直造材での出品をお願いします。

また、合板用丸太についても、継続的な原木不足から需要が保たれている状況です。

広葉樹は伐り旬を迎えつつあることから、良質材に高値が見られるようになってきました。北信木材センターではカキやカエデの良質材に応札が集中し、中信木材センターではミズメに高値がつきました。

今月の記念市を皮切りに、納市、年明けの初市と特別市が続いてまいりますので、出品のご協力のほどよろしくお願いいたします。

【当連合会は合法木材に取り組んでおります】

合法木材供給事業者の認定を取得したうえで、出荷時には合法的に伐採された木材であることのコメントと合法木材認定番号及び伐採地と伐採箇所が記載された納品書及び伐採届の提出をお願いします。

※安全のため、木材センターでの荷下ろし・積み込みの際には車止めの使用とヘルメットの着用をよろしくお願いします。



県森連 HP では市売情報を写真付きで随時更新しております！

最新の市況表もご覧いただけますので、納材や入札の検討にご活用ください！

「長野の林業」のバックナンバーもこちらから♪

長野県森連

